

5 月に猛威を振るった台風 2 号による停電で、人工呼吸器やたんの吸引など医療的ケアが必要な子どもがいる家庭の半数は、クーラーの停止で体温調節ができなかったなど対応に困ったことが、一般社団法人 Kukuru の調査で分かった。電源が必要な医療機器を抱えながら、「避難」や「電力確保」にも不安を抱えており、台風時の支援体制の充実が求められている。

アンケートは、障がいのある子や家庭の支援を手掛ける同法人が、医療的ケアの必要な 43 家庭から回答を得た。

停電で困ったことでは、「吸引器のバッテリーが少なくなり焦った」、「医療機器のバッテリーが切れた」、「エレベーターが止まって、スロープを車いす

で降りるのが危険だった」などの意見が挙がった。

台風対策で必要なことや希望する支援は「避難に関すること」(47%)、「電力」(29%)、「医療機器」(11%)、「移送」(4%) など。

「避難」に関することでは「人工呼吸器使用時に病院へ避難した場合、受け入れ態勢が気になる」、「避難先（病院）でのベッド確保」、「電源がある避難場所が分からない」、「台風前の安全な避難」など支援体制を求める意見が出た。

電力に関しては、自家発電機のレンタルや長時間停電する場合、市町村などでの発電機の貸し出しなどを求める声もあった。

(沖縄タイムス・那覇 2011 年 7 月 24 日)